

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	国語	科目	国語表現	単位数	3	学年	3	類型	カレッジコース
教科書	国語表現			副教材	国語表現 基礎練習ノート				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4	第1部 表現力を培う	言葉と表記	整った文の書き方を理解させる。	◎	○	学習のねらい 1学期は小論文を書くことを見据え、まず、文法的な間違いや文のねじれが起こらないよう基本的な表現について学びます。また、正しい敬語が使えるようになるために練習問題を解きます。その後、小論文の構成の基礎を学び、構成メモを作り時間を計って小論文を執筆します。今まで学んだことをもとに推敲し、テーマを変えて小論文を時間内に仕上げられるよう練習します。 2学期は面接で正しい敬語を使い、自己をアピールできるよう自分の長所短所や趣味、特技などを見つめ直し、文章に起こせるようメモしていきます。メモをもとに志望動機や願書が書けるように練習します。 3学期には言語感覚を身に付け語彙力を高めるため、様々な言葉遊びや討論会など表現活動に取り組めます。
				言葉や表現の問題を取り上げ、表現についての関心を深めさせる。		○ ◎	
			整った文を書く	係り受けの正しい文を理解させる。	◎	○	
	5			〃	○	◎	
				文末表現の統一について理解させる。	◎	○	
	6		相手に応じた言葉遣い	敬語について正しい知識を持ち、その使い分けを理解させる。	◎	○	
				〃		○ ◎	
			話し言葉と書き言葉の違いやその使い分けについて理解させる。	◎	○		
			わかりやすい文を書く	わかりやすい文を書くためのポイントを理解させる。	◎	○	
2 学期	9			わかりやすい文の書き方を習得させる。 期末考査	◎	◎	学習の目標 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにします。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになります。
				〃		○ ◎	
			文のつながり	接続表現の種類と働きを理解させる。	◎	○	
				文脈による文のつながりを理解させる。		◎ ○	
	10						
		第1部 表現力を培う	小論文・レポート入門	小論文の基本的な書き方を理解させる。	◎	○	
				自分の意見とは対立する意見を考慮しながら書くことの意味を理解する。	◎	○	
				文章の要旨をつかむための方法を理解させる。	◎	○	
				統計資料から読み取ったことをふまえて論点を整理させる。	○	◎	
				〃		○ ◎	
	11			発想を広げるための方法を理解させる。		○ ◎	知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
			自己PRと面接	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考えさせる。		◎ ○	
				自分の特長を端的に表現した印象に残るPRの原稿を書く。	○	◎	
				適切な言葉遣いや態度での面接の受け答えをさせる。		◎ ○	
	12			〃		○ ◎	思考・判断・表現 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。
			メディアを駆使する	さまざまな通信文の形式を理解し、相手や目的に応じて適切な通信文を書かせる。	◎	○	
				〃		◎ ○	
3 学期	1			初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解させる。	◎	○	主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
				課題を解決するために、建設的に話し合わせる。	◎	○	
				学年末考査	◎	◎	
	2			家庭学習			備考
				〃			
				〃			
				〃			
	3						

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【国語表現の特色】

- 表現技術の向上を目指します。
- 作文やスピーチ、ディベートなどを通して、自己を表現し、他人を理解する態度を育てます。
- 手紙の形式や、敬語の使い方など、就職や進学に向けて基本をマスターします。
- 国語力の基本となる漢字の読み書き・慣用句などを徹底的に覚えます。

【授業】

- 週2時間の授業があります。
- 授業の流れ
テーマを決定する→作文を書く→推敲→発表→評価
- 1学期は整った文章を書くための基礎を学びます。
- 2学期は小論文の型にそって実際に小論文を書いていきます。
- 3学期にはブックトークをしたり手紙の書き方を学んだりします。

【家庭学習】

- 日頃からニュースなどに興味を持っておくことが大切です。
- 授業時間以内で書き上げられなかったものをきちんと仕上げます。
- 敬語などは普段から使うようにしましょう。

【定期考査】

- 漢字・慣用句・ことわざなど基本の確認をします。
- 文章の間違いなどを訂正するなど、文章を推敲できるようにしましょう。

【その他】

- 日本人だから話せて当たり前・・とっていたら、意外とみんな苦労します。日頃から新聞・ニュース・読書などに関心を持つことが大切です。文章力はすぐには伸びません。こつこつ日頃から取り組みましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況及び学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①関心・意欲・態度 ②話す・聞く能力 ③書く能力 ④知識・理解の五つの観点 から評価します。ただし、定期考査を重視します。	
評価の規準	1 学 期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	2 学 期	期末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	3 学 期	学年末考査(全ての観点から評価しますが主に⑤を重視します。) 出席状況及び学習意欲(主に①の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③⑤の観点から評価します。) 課題提出状況等
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均